

観光社会資本の事例

テーマ	セントレア ～ ころるときめくエアシティ ～
【施設の状況写真】  セントレア(中部国際空港)は、名古屋市の南約 30km、常滑沖に建設された 24 時間離着陸可能な 3,500m の滑走路を持つ大都市圏拠点空港です。  国際線と国内線が一体となった旅客ターミナルビルは、「わかりやすさ」、「あんしん」、「やさしさ」を追求し、ユニバーサルデザインの考え方に立ってつくられています。	
【施設の利用写真】  にぎわうスカイトウン。奥には日本の宿場町を彷彿とさせるちょうちん横丁が広がります。  スカイデッキ。航空機の離着陸を間近に眺めることができます。	
【観光資源としての利用状況】 セントレアは、航空機をご利用のお客様はもちろん、航空機を利用しないお客様にもお楽しみいただけるよう、空港施設と商業施設が一体となったひとつの大きなまち「エアシティ」のコンセプトのもとに工夫が凝らされています。航空機の離着陸や伊勢湾などが一望できる壮大な展望デッキ・展望レストラン・展望風呂、ヨーロッパの路地をイメージさせるレンガ通りや日本の宿場町を彷彿とさせるちょうちん横丁などの商業施設、結婚式もできる開放的なセンターピアガーデンなどが、空港本来の機能を果たす出発・到着ロビーなどとあいまって、独特の魅力的な非日常的空間を作り出しています。セントレアに親しんでいただくための空港見学ツアーも実施しています。 今後は、周辺地域、国内各地等との連携により、観光の拠点としての機能を高めていきます。	

テーマ	セントレア ～ ころときめくエアシティ ～
【社会資本の基礎データ】 ○ 名称 中部国際空港(愛称:セントレア) ○ 所在地 愛知県常滑市セントレア ○ 事業名 中部国際空港 ○ 事業主体 中部国際空港株式会社 ○ 事業期間 平成 12 年 8 月空港島本格着工～継続中	
【社会資本の役割・効果】 日本と世界を結ぶ新しい空の玄関、セントレア セントレアは、今後とも増大する航空需要に対応し、我が国の国際競争力を強化していくためのライフラインとなる大都市圏拠点空港のひとつとして愛知県常滑沖に建設され、平成 17 年 2 月 17 日に開港しました。 充実した国内線と国際線が使いやすい同一の旅客ターミナルビルに就航しており、外国人の国内各地への旅行や日本人の世界各国への旅行のためのゲートウェイの役割も担います。 24 時間いつでも航空機が離着陸可能な空港機能や効率的な貨物取扱施設を持つとともに、道路網や国内航空路線網にも恵まれており、中部圏をはじめ我が国の経済活動や暮らしを支える国際物流拠点の役割も担います。 セントレアは、あらゆる活動を通じて、「利便性・経済性に優れた空港」、「CS(顧客満足度)世界 No.1 空港」になることを目指しています。	
【位置図】  ○ 鉄道アクセス 名古屋鉄道を利用し、名古屋駅から最速 28 分です。名古屋駅では新幹線、JR 線、近鉄、地下鉄と接続しています。 ○ 自動車アクセス 名古屋市内から名古屋高速、知多半島道路、セントレアラインを利用し約 40 分です。 ○ バスアクセス 名古屋市内から約 60 分です。 ○ 海上アクセス 津から高速船で 40 分です。 伊勢からフェリーで、空港対岸部まで 100 分です。	
【関連ホームページ】 中部国際空港ホームページ http://www.centrair.jp/	